

ご用命・お問い合わせ先  
アペックス産業株式会社  
電話 03-3455-6474  
FAX 03-3455-6558

＜詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください＞  
URL <http://www.apex-sangyo.jp>

●切り取って保存してご利用ください。  
キリトリ線

# APEX CLUB '15/5

アペックス産業株式会社 第39号

## 『APEX CLUB』

発行 2015年5月1日(通算39号)  
発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会  
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4  
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558  
ホームページ <http://www.apex-sangyo.jp>  
発行人 元木 貢 (編集委員) 山口力広、高塚章夫  
佐々木 健  
(事務局) 齊藤久美

## ギャラリー

ひとびと

写真家 / 勝山 泰佑



木村恒久

▲Neil Young

### ●作者(かつやま ひろすけ)プロフィール

1944年 東京都出身  
1963年 早稲田大学入学、写真家・濱谷浩の助手になる。  
1969年 大学卒業後、フリーの写真家になる。  
「アサヒグラフ」など雑誌で仕事。  
1978年 ボブ・ディラン日本公演、アメリカ最後ツアー撮影。

### ☆出版および写真集☆

1991年 写真集『寂聴』(朝日新聞社)  
1993年~94年  
アサヒグラフ「山手線 29 物語」「東京湾諸国囃」連載。  
1995年『海渡る恨』(韓国・汎友社)  
2015年『勝山泰佑 50年 できごと・ひとびと』



▲瀬戸内寂聴



▲宇野千代

●作者寸言  
写真を意識して撮り始めてから五十年が経った。これを機に、撮ってきたものをまとめようという話が起きた。友人の編集者が五千五百本のモノクロネガをすべて見て、これまでの五十年の「できごと」と「ひとびと」の二分冊の写真集になった。  
写真はすべて過去のものである。撮った瞬間から過去の記録になる。五千五百本をベタ焼き、セレクトして、キャビネ、六つ切り、四つ切りと拡大していく作業の中で、それらはぼくが写したものに違いないのだが、画像となった記録は決して個人の所有物ではないと強く思うに至った。  
「ひとびと」に収められた二百四十人のスナップポートレートは、この五十年の「できごと」をつくってきた「ひとびと」でもある。  
今日もまた「新しい過去」との出会いを求めて、ひたすら。



▲Jane Fonda



▲小田 実

また道頓堀へ。「がんこ」で近江牛のしゃぶしゃぶを味わいましたが、バスでホテルへ帰ったのは五人ほど……。残りはどこへ消えた？



インシ  
ました。  
チェ  
ツクイ  
ン後、  
夕食は

二日目はフリータイム。  
高野山、京都  
観光、有馬温泉、司馬遼太郎記念館など、自由に旅行を楽しみました。  
三日目は初めての試みですが、薬剤・資材を発売している環境機器株式会社の

社内旅行記  
当社では二年前に積立社内旅行を実施しています。行程は二泊三日で、特徴として同じホテルに連泊し、中日は終日フリータイムにしています。  
今回の行き先は再び大阪。参加十四名。初日は新幹線で大阪入りし、道頓堀のお好み焼き「千房」で昼食を取った後、「あべのハルカス」で地上三百mの空中散歩を楽しみました。エレベーターが通勤電車並みの混雑でした。そのあと大阪城で冬の陣、夏の陣に思いをはせ、大阪城を臨む一流シティホテルにチェック



本社見学に向かいました。会長はじめ多くの社員に迎えていただき商品開発の裏話を伺いました。

旅行最後の昼食は「美々卯」のうどんすきを堪能し大阪の味の締めくくりとしました。

### 当社の看板

当社の玄関口の階段の脇に、電照看板があります。  
平成六年のビル落成以来、東京医科歯科大学学長・加納六郎博士の「アカエトリバネアゲハ」と田中正氏の「カマキリ」が展示されてきました。それを今回更新することになりました。



新しい写真は、本誌第三十七号「ギャラリー」の石崎幸治氏の「威嚇するオオカマキリ」と「ツマグロヒョウモン」です。迫力ある画像をお楽しみにご来社ください。  
ちなみに、向かい側には巨大な蚊のミニチュメントがあり、近所の幼稚園児の人気スポットになっています。

北陸新幹線に乗って  
衛生動物学会に参加  
北陸新幹線が開通し、東京と金沢がわずか二時間半で結ばれました。前回、金沢で衛生動物学会が開催されたのは三十五年前の一九八〇年でした。初めて飛行機に乗って、両側のシートには医科系の仲間の医者、平静を装って新聞を手にしていましたが、逆さまだったのを覚えていています。  
三十五年前の大会では、まだまだ日本脳炎の発生があつて、蚊の研究発表が多く見られました。今回は昨年六十九年ぶりに日本国内で発生したデング熱に関して、前日の殺虫剤研究班と本大会で特集が組みられました。大会もデング熱フィーバーに溢れていました。  
食事をしようと仲間と街に出て食事処を捜したところ、どこも満員御礼、八軒目でやっと食事処にありつけるほど、こちらもバブル期を彷彿させる北陸フィーバー。  
でも、さすが加賀百万石の地、海の幸、山の幸は本物、味とお値段に大満足でした。  
(写真は金沢駅での撮鉄フィーバー)

## おじやま虫

Q&A

### デング熱

Q...予防するにはどうしたらいいですか？

A...ネッタイシマカは国内には定着しておりません。ヒトスジシマカは昼間吸血しに飛来します。ヒトスジシマカは、小さな水たまりに産卵するため、人家周辺の水の溜まりやすい容器(バケツやプランターの水受け、ビニールシート、古タイヤ等)や雨水槽から発生します。これらを放置しないように気を付け、蚊が潜伏しやすい茂みを整備します。また、カの発生しやすい時期(五月〜十一月)は、屋外では虫除けスプレー(成分:ディート)を使用し、庭作業等ではできるだけ肌を露出しない服装をすることが重要です。

Q...デング熱ってなんですか？

A...ヒトスジシマカやネッタイシマカがヒトを吸血することで感染する、デングウイルスによる感染症です。

Q...症状はどうなるのですか？

A...高熱を発症し、頭痛、顔面紅潮等から始まり、全身倦怠感、筋肉痛等の後、胸部、体幹から四肢、顔面に発疹が広がります。発熱が一週間程度続くことがありますが、多くの場合はほぼ一週間で症状が回復します。ごくまれに発熱後にショックを伴う出血症状を呈することがあります。